[redacted]			

（項目ア―観点①居場所づくり）

【学校名】北海道岩見沢西高等学校

【活動の名称】
「第一志望決定集会」（２年次）

【活用した資源】外部講師（ベネッセ）、進路指導部

【対象学年と活動の時期】２年次　６月～12 月

【活動の概要】
・２年次の全生徒が、「第一志望決定集会」に向けて各集会や面談等に取り組むことで、各自の進路目標を明確にし、進路決定までの道のりを確認するとともに、お互いに励まし合えるピアサポート体制をつくる。

【ねらい】
・進路決定を進める中で、「団体で受験に向けて努力する」体制を作り、ピアサポートを行う。
・進路決定に向けて互いに支え合うことで、居場所づくりを行う。

【活動の流れ】

第一志望届スタート集会
・６月実施
・進路決定に向けた心構え

第一志望届集会
・７月実施
・第一志望届けについて

第一志望面談
・９月～
・第一志望届けを元に校長・教頭・進路の先生が面談

第一志望決定集会
・12月
・全員が第一志望を決定し、進路学習が終了→受験に向けて突き進む

①第一志望届スタート集会（６月）
２年次で行う進路学習についての概略を説明する。
夏休み中にオープンキャンパスに行き、進路選択の視野を広げさせる。
②第一志望届集会（７月）
第一志望届を書くまでの手順について説明する。
③第一志望面談（９月～）
第一志望届を提出させて、全生徒が進路面談に臨む。
厳しい質問により進路決定への意思を明確にさせて、進路意識を高める。
④第一志望決定集会（12 月）
外部講師による講演を通して、社会人としての心構えと進路決定までの道のりを確認する。
全員が第一志望届を提出し、進路決定に向けて**３年生０学期をいう意識を高める。**
進路実現に向けて、互いに支え・励まし・教え合う「**ピアサポート**」体制をつくる。

生徒の決意文（抜粋）
今日の第一志望決定集会を機に進路決定に向けて年次一丸となって取り組みたい。「受験は団体戦」という意識をもち、最後まであきらめることなく挑戦していきたい。

【本活動における成果等（留意点含む）】
・外部講師の進路講話により、生徒全体の進路意識を高めることができた。
・「受験は団体戦」を合言葉に生徒同士が支えあう環境をつくることができた。
→年次全体で「進路実現」に向けた意識が高まり、苦手な科目を互いに教え合うピアサポート体制をつくることができた。

【学校名】北海道岩見沢西高等学校

【活動の名称】
「岩見沢高等養護学校とのスポーツ交流会」（生徒会）

【活用した資源】岩見沢高等養護学校・市内高等学校生徒会

【対象学年と活動の時期】９月～11 月

		■	

（項目ウ―観点②絆づくり）

【活動の概要】
・岩見沢市内の高等学校４校と岩見沢高等養護学校の生徒がスポーツを通じて交流を深める。

【ねらい】
・お互いを知り、交流を通して絆を深める。
・生徒の企画力を養い、リーダーの育成を図る。

【活動の流れ】

1　カーリング体験（心のバリアフリー事業）

・自 己 紹 介･･･最初は教員指導でグループ作り、自己紹介
・ルール説明･･･競技の内容について学ぶ
・練習・試合･･･競技を通じて、「声かけ」の大切さを学ぶ
・振 り 返 り･･･交流会後に各自の課題を出し合い次回に繋げる

2　ウィルチェアラグビー体験（心のバリアフリー事業・アスリートの講演会）

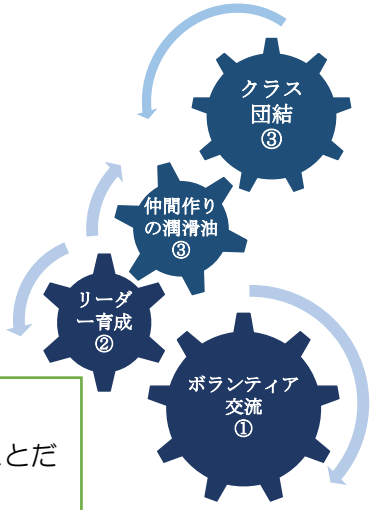
・パラリンピック選手の講演会
・実技交流･･･競技の内容について学び、体験交流
　　他校の生徒とチームを組み、交流、親睦を深める
・振り返り･･･自校に帰り成果と課題を話し合う

3　スポーツ交流会（シッティングバレーボール体験）

・各校の代表者で事前打ち合わせを行い、スポーツ交流会を企画していく
・シッティングバレーボール交流
・生徒会交流
・フロアカーリング体験
　＊交流スポーツの種目、運営方法、役割分担など生徒同士で話し合い決定していく
・相手を思いやる気持ち、リーダー性を養う

絆づくりの手法を
リーダーが身につける

リーダーが個を繋げる



生徒の感想
・たくさんの人に出会え、話をして、一緒にスポーツするのは貴重なことだと思った。
・みんなで同じスポーツをすることによって、たくさん交流することができて、スポーツは楽しいと改めて思った。

【本活動における成果等（留意点含む）】
・スポーツ交流を通じて、企画力を養い、他者を思いやる心を育てることができた。
・教員からの生徒への声かけ、特にグループに入れなかった生徒への声かけを工夫する必要がある。

【学校名】北海道札幌東豊高等学校

【活動の名称】
朝の挨拶運動

【活用した資源】生徒会執行部、朝の立ち番担当教員

【対象学年と活動の時期】全学年、通年（４月～３月）

	■		

（項目イ－観点③環境づくり）

【活動の概要】
・登校時の生徒玄関で、生徒会執行部と立ち番担当教員（全教職員による輪番制）が、登校してくる生徒に対して挨拶活動を行い、啓発する。

【ねらい】
・挨拶をすることで、本校生としての所属意識や一体感を醸成する。
・挨拶を通じて、互いを認め合い、関わり合いながら円滑に学校生活を送ることができるようコミュニケーション能力を育成する。
・立ち番担当を全教職員による輪番制で行うことにより、生徒の様子等を観察し、教員間で共有することで、組織的に生徒理解を進めるための一助とする。

【活動の流れ】
①生徒指導部が中心となり、輪番制の玄関立ち番指導計画を作成する。
②生徒会執行部が、生徒会挨拶運動計画を作成する。
③生徒指導部が、全教員に、生徒会挨拶運動計画を加味した指導計画や活動方針について説明するとともに、生徒指導部通信を発行し、全校生徒への周知を図る。
④生徒会執行部が、生徒会通信を発行し活動を周知するとともに、朝の挨拶運動を実施する。

〈生徒会執行部が、登校時に声をかけます〉

〈教員も、朝の玄関で、生徒を迎えます〉

朝の挨拶運動の時程について
８：15　談話室集合
８：20　挨拶運動開始
（20 分間）
８：40　挨拶運動終了

先生方も、毎朝、生徒会執行部とともに、生徒玄関に立ち、登校してくる生徒に声をかけます。
（全教員による輪番制で５名体制）

【本活動における成果等（留意点含む）】
・学校生活のスタートを明るく迎えられることにより、自らも挨拶を実践する生徒が増えた。
・一過性の運動ではなく、通年の活動とすることで、継続した挨拶運動が展開され、本校生徒に挨拶する習慣が形成され、拡大、定着した。
・挨拶を通じてコミュニケーションが図られ、お互いを認め合うことにより、円滑な人間関係を構築する一助となった。
・特定の生徒や教員に限定せずに実施したことから、生徒と教員のコミュニケーションを図る場としての役割を担った。

		■	

（項目ウ－観点③環境づくり）

【学校名】北海道札幌東豊高等学校

【活動の名称】
地域行事への積極的な参加
～さっぽろ雪まつりつどーむ会場ボランティア～

【活用した資源】生徒会執行部、各部活動生徒、希望者

【対象学年と活動の時期】全校生徒　２月

【活動の概要】
・つどーむ会場での「竹スキー」体験の補助活動を通じて、来場した児童生徒等と交流する。
・スノーオブジェ（雪像）コンテストに参加する。

【ねらい】
・「さっぽろ雪まつり」の運営に協力し、近隣の児童生徒等と望ましい交流の在り方を工夫させる。
・異年代の方々との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、好ましい人間関係や社会との関係を構築しようとする自主的な態度を育成する。

【活動の流れ】
（事前）
①生徒会担当顧問が、雪まつり実行委員会の会議に参加し、東豊高校の役割分担を確認する。
②役割分担に応じて、作業を進める。
生徒会執行部→全体の調整など
野球部→竹スキーの作成
美術部→スノーオブジェ（雪像）の作成
※手伝いを全校生徒及び各部活動に募った。
③生徒会執行部を中心に、児童生徒等に接する際の留意点について説明するための事前打合せを行う。

多くのボランティアの方々に「雪まつり」が支えられていることを知りました！

〈竹スキーでの滑り方を教えます！〉

第67回　さっぽろ雪まつりボランティア参加要領
つどーむ会場８：20集合　活動内容：竹スキー運営補助・輪投げ、コマ遊びコーナー係

（当日）
①部活動顧問等が、生徒の出欠を把握し、当日の役割分担を確認する。
②会場において「竹スキー」のイベント運営やダンス、交通整理などに取り組む。

斜面を削ったり、砕いたりして、子どもたちが転んでも痛くないように全員で準備しました！

〈参加する子どもたちをサポートします！〉

当日は気温が低く、雪がとても堅かったので制作に苦労しましたが、何度も話し合い、全員で力を合わせたことで結束力が生まれました！

〈美術部が中心となり、今年も雪像が完成です！〉

【本活動における成果等（留意点含む）】
・普段接する機会の少ない、多くの児童生徒や大人との交流において、コミュニケーションを図ることにより、好ましい人間関係を構築しようとする態度が育成された。
・北海道を代表するイベントの準備から実施に至るまでの間、仲間と協力して参加できたことから、他者や地域の役に立つことの喜びを経験することで、自己有用感が育成されるとともに、社会との好ましい関係を構築するという経験ができた。
・ボランティア活動への参加を通じて、自他を尊重する態度の育成や、自らの高校生活をよりよいものにしようとする意識の形成につながった。

【学校名】北海道倶知安農業高等学校

【活動の名称】
コミュニケーションスキルトレーニング（ＬＨＲ）

【活用した資源】
アンガーマネジメントに関する教育実践

【対象学年と活動の時期】全学年　１０月（２回目）

■			

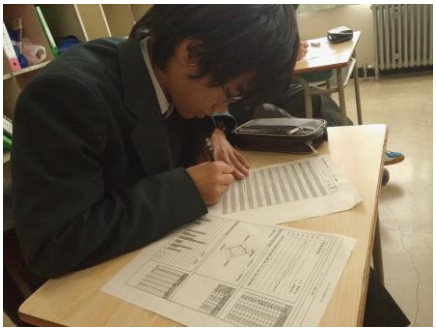
（項目ア―観点③環境づくり）

【活動の概要】
- 「ほっと」（２回目）の結果から、４月から変化したクラスの特徴、個人の強み、課題について説明し確認する。
- ストレス対処や感情の取り扱い、とりわけ怒りについて演習を通してアンガーマネジメントを身に付ける。
- いじめの実態調査結果からいじめの認識について、仲間意識を高める観点から考え、実践する。

【ねらい】
- 個人や学級のコミュニケーションスキルの強みと弱みについて理解する。
- 演習を通してストレス対処を身に付けるとともにアンガーマネジメントの行動選択ができる。
- グループワークを通してクラス集団の力を発揮することで、諸活動を成功に導く。

【活動の流れ】

①　ＬＨＲで担任から「ほっと」の結果、学年の特徴と課題について説明する。自分の強みと課題について整理する。その際、いじめを未然に防止するには、規範意識と拒否スキル、相談する力が大切であることなどについて理解を深めさせる。



＜データを元に自分の強みと課題を整理＞

②　ストレス対処についてブレーンストーミング（30 秒）を行い、グループ毎に発表する。ストレス対処法をシェアし、どんな方法で対処できるかを知る。

〇ストレス発散の方法はいくらでもあると思いました。ストレスをためすぎるとそれが敵意になることもあると思いました。敵意をもつと最悪とんでもないことをしてしまうと困るので、すぐに怒らないで、怒りをコントロールできるようにしたい。

③　ストレス対処がうまくいかない場合の弊害を理解し、怒りを感じたときの対処方法について、呼吸法の演習を行い、からだと心のつながりを実感する。

〇自分の感情を感じることが大事だと分かりました。

④　話を聞くことにはレベルがあり、その難しさについて理解する。

〇人の話を聞くのは、話すより７倍大変なことが分かったので、しっかり聞こうと思いました。
〇人と話す時、挨拶レベルから感情レベルまであることを知り、活用したいと思いました。

⑤　話す、聞くことを通して仲間の理解を深め、いじりがいじめにならない集団づくりについて理解する。

〇いじめをしてはいけないが、いじりがいじめと感じてしまえばいじめになることがあるから、仲間意識が強くなるようなコミュニケーションが大事だと思う。

＜コミュニケーションスキルトレーニングで取り上げる内容の選定について＞

①　「ほっと」の結果入力は担任が行い、生徒理解を深める。LHR の資料は、学年と個人のデータについて生徒指導部が作成する。

②　「ほっと」を使い教育相談を２回実施する。それぞれの生徒について面談の際の観点を決めて、生徒の自己理解を深めさせるとともに、ストレス対処の方法についてもワンポイントアドバイスを行う。学年毎に教育相談の状況について共通理解を図り、生徒理解会議で学年の課題や変化について確認し、コミュニケーショントレーニングに必要な内容を選定する。

【本活動における成果等（留意点を含む）】
- 個人の強みや課題を確認した後、コミュニケーションスキルのトレーニングで集団づくりを意識した演習等を実施することにより、個人と集団のそれぞれが相乗的に成長することができた。
- 社会生活を送る上で必要なことに焦点化して実施し、生徒の進路選択にも役立てることができた。